

# ぷらっつ☆篠崎

江戸川区立篠崎図書館 〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ内（03-3670-9102）

## 館長の紙BLOG

2009年5月1日

### 北の町の熱気

自分が立っているこの土地の「今」は、どんな昔の生活の積み重なりからできているのか。そんな「地層」をほぐしたくて区郷土資料室にお邪魔することがあります。明治時代降は写真資料も増えてきて、保管されている数千枚の写真原版は圧巻です。

その中に、山形県内で撮影された「小松川の疎開学童」がありました。夏の夜は山形名産だちや豆とビールで過ごすほどのわたしにとつてこれは見逃せず、あたりに撮影状況の詳細を調べましたが、館内の郷土資料を読んでももうひとつつかめない。

そんなときは情報ソースを核心に求めるのが得策で、鶴岡市立図書館の館長さんに教えていただくことにしました。

「うちの館にもそちらと同じ資料がありまして、あれですな、二見ヶ浦の緞帳（どんちよう）のある大広間で、朝飯ですか、みんなで食べてる」

いつものように庄内弁のほのぼのアクセントのお声が元気に受話器からはじけます。

「そうです、そうです。全員背筋をしゃんと伸ばして正座して、箸と茶碗を行儀よく持つているあれです。うちの子供たちにはとても真似できません」

「そうすると、赤湯温泉のある、ほれ、東置賜（ひがしおきたま）郡の、あそここの神社の講堂ですな」

鶴岡市ではなかったものの、もやもやも晴れまして、晴れたついでにタダでは起きず、置賜上杉鷹山↓藤沢周平↓庄内、と発想をリンクさせて「庄内——その風土と文学——藤沢周平の世界」なる講演会をとんとんと企画してしまつたのです。6月27日、場所は篠崎図書館。講師にお招きする東置賜ネイティブで鶴岡市在住の郷土文学研究家、東山昭子さんは、「海坂藩」の女はこうであつたかと惚ぶに足る、まことにゆかしくも熱気を感じさせる方です。

疎開がとりもつ江戸川区と鶴岡市のあいだの地層のつながりにこっぴ、とたしかにぶつかった気がした、初夏のとある日でした。

## イベント情報 5・6月

篠崎図書館主催講演会

「庄内 —風土と文学—

藤沢周平の世界」

6月27日（土）

14:00～15:30（開場：13:30）

講師：東山昭子氏

（郷土文学研究家 東北公益文科大学講師）

篠崎文化プラザ講義室

定員：100名（当日受付、先着順）どなたでも参加できます。

入場料：無料

お問合せ：篠崎図書館（03-3670-9102）まで

大人のための映画会／ライブラシネマ篠崎  
第5回上映作品

「バグダッド・カフェ」

6月20日（土）

14:00～16:00（開場：13:30）

篠崎文化プラザ講義室

定員：70名（当日受付、先着順）

どなたでも参加できます

入場料：無料

お問合せ：篠崎図書館（03-3670-9102）まで

## ☆特集展示☆

5月 「世界に誇る日本のチカラ」

町工場の精密技術・伝統工芸・アニメ産業など。日本発のチカラ、ここにあり。

6月 「IN MY ROOM」

梅雨の季節を部屋で快適に過ごすには。インドア系趣味やインテリアの本を特集します。部屋の湿気対策や雨に関する本も。

より詳しい

# 篠崎図書館館内のご案内

## PART 2

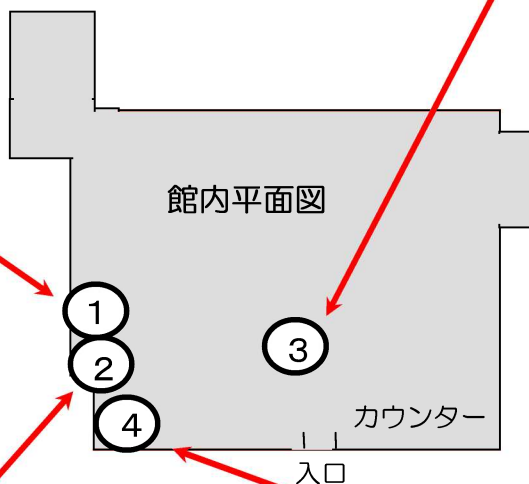
図書館の本はジャンルごとの分類にしたがって並んでいます。とはいえ、目的によってはジャンルを超えてまとめてお伝えしたい本もあります。〈知っていると便利な館内案内・続編〉として、そんな「目的別コーナー」をとりあげてみました。



### ① ヤングアダルトコーナー

中学生～高校生向けの本を集めました。篠崎図書館は「大人のための図書館」なので、このヤングアダルト(YA)コーナーも「大人への階段」を意識した本を選んでいきます。

本の並べ方の規則は一般書と同じなので、ここを“卒業”した方は、一般書の本棚の、同じラベルのところにも行ってみては？なお、YAコーナーの本の背ラベルには、ジュニアを意味する記号「J」がついています。(このような特別なアルファベットを「別置記号」といいます)



### ② 江戸川総合人生大学文庫

江戸川総合人生大学と篠崎図書館とのコラボレーションにより、北野学長をはじめ学科長、講師方々の著作や教材を集め、常設の文庫として開設しました。学科別に分けて並べています。

もちろん大学の生徒の方だけでなく、一般の図書館を利用される方もご利用いただけます。

本の背ラベルの別置記号は「N」です。



### ②ミニ特集コーナー

大活字本の棚に間借りしていて、目立たないかもしれませんが、時事の話題をテーマに選定した本を展示し、世相に切り込んでいます。

当館の特集展示は大特集とミニ特集の二本立てになっており、ミニの方は「今」を意識しているため、入れ替えを早めにして小回りをきかせています。



### ④ 郷土・行政コーナー

江戸川区や23区、そして都にまつわる本や行政資料を集めています。特に郷土の歴史、行政について詳しく調べたいときに重宝します。(コーナーの一番左手は調べもの専門の本や貴重書のため、館内でのみの閲覧になっています。本の背ラベルの別置記号は「K」です。



## 第3葉 周瑜

今回紹介するのは4月に完結編も公開されて人気を博した映画「レッドクリフ」の主人公、周瑜(しゅうゆ)、字は公瑾(こうきん)。三国志きっての美男子で、「美周郎」とうたわれた。英雄はなぜかイケメンが多い。しかも、音楽にも精通していたらしい。赤壁の戦いで曹操軍80万に対して、3万の軍勢で壊滅させその名を不動にした。しかし、天才というのは短命が多く、周瑜

も36才の若さでこの世を去っている。私は歴史上の人物では上杉謙信や楠木正成のように義に篤(あつ)い人物が好きである。周瑜もその一人だ。周瑜は親友の孫策を主君としていた。その孫策が若くして病死し、弟の孫権に仕えることとなった。周瑜は若い孫権を補佐し、死の間際まで献策し続けた。まさに男の鑑である。

自分の信じた主君に最後まで仕え、時には主君のために命をかける。男なら一度は憧れる生き方ではないだろうか？

私もそのような生き方をしてみたいが難しいものである。少しでも義にあつい人物になれるよう日々努力をしていきたい。

## (周瑜関連本)

「三国志・赤壁の戦い」 三国志最大の戦いである赤壁の戦いを中心に描いた作品。周瑜、諸葛亮、曹操など英雄たちが赤壁でぶつかりあう。この一冊で赤壁の戦いが分かる。

「三国志傑物伝」 三国志の代表的人物を史実に基づいて紹介している。「演義」にはない「正史」だけのエピソードが満載。三国志通の人も必ず新しい発見があること間違いなし。

## DVDへの誘い Vol.3

## ダーウィンの眼(全3巻)

小学館 2006年

今年はダーウィン生誕200周年です。

現在の生物進化の研究は遺伝子レベルにまで及んでいますが、進化の考え方を体系的に俎上に乗せた最初の人

はダーウィンにはかなりません。今から180年も前、イギリスの港を出港した測量艦ビーグル号は、南アメリカや南太平洋を5年もかけて巡りました。博物学者として乗り組んだ22歳の若きダーウィンは、ガラパゴス島のフィンチやゾウガメの多様性を目に焼き付けました。それはいきものたちが生き残るためにベストを尽く

している姿なのでした。

本DVDはビーグル号による航海の足跡を追い、いきものたちにもう一度ダーウィンの視点で迫っています。航海の23年後、すなわち今から150年前に「種の起源」が出版され、全世界に衝撃を与えました。同書の核心である「自然選択」と「種の分化」の考えは、まさにビーグル号の船上でかたちづくられていたのです。

この作品にはまた、状況さえ許されていれば必ず立ち寄ったであろう場所も収録されています。あなたならそこで見るものに何を感じ取りますか？

生物進化についてもっと知りたい人は、関連本を片手に画面を追われることをおすすめします。

## 藤沢周平 人と作品

藤沢周平は、「武家社会の主流」を描かず、下級武士や浪人、江戸に暮らす庶民を多く題材にし、時にはユーモアも交え、人生の悲しみや喜びを書いた作家といわれる。肺結核で長く療養した経験からか、人間の光と闇、善と悪を見つつも人間への信頼感を失わず、気高く、弱い者に優しい心で小説を書きつづけた。

また、愛してやまない自らの郷里の山形県庄内地方をモデルにした架空の「海坂藩」を多くの小説の舞台とし美しい四季の移ろいや懐かしき“日本のふるさと”の姿を、情感あふれる筆致で描いた。

## ☆藤沢周平プロフィール

昭和2年、山形県東田川郡(現鶴岡市)生まれ。本名小菅留治。中学校教師、新聞記者を経て小説を書き始める。昭和46年「溟い海」で第38回オール讀物新人賞受賞。昭和48年、「暗殺の年輪」で第69回直木賞受賞。その後も、「蟬しぐれ」「三屋清左衛門残日録」「たそがれ清兵衛」などの人気作から、ミステリ、浮世絵、伝記小説など、幅広く多様な作品を発表した。平成9年没。

☆6月27日(土)に、庄内の育んだ文学とその風土について講演会を開催します。藤沢周平ファンはもちろん、そうでもない方も皆さんお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。(お知らせは、この号の第1面にあります)

## スタッフのセレクション！

篠崎図書館で働くスタッフがほとんど個人的趣味で選んだおすすめ本やCDを紹介します。今号は、Kさんが選んだ時代小説です。

### その第6回

しょうげん

#### 「将監さまの細みち」 山本周五郎

『おごそかな渴き』(新潮文庫)、『山本周五郎中短篇秀作選集 5』(小学館)収録

【私の書くものはよく「古風な義理人情」といわれる。ここに集めたものも、そう言われる部類に属するが、私は自分が見たもの、現実を感じることでできるもの以外は(殆んど)書かないし、英雄、豪傑、権力者の類には全く関心がない。人間の人間らしさ、人間同士の共感といったものを、満足やよろこびのなかよりも、貧困や病苦や失意や、絶望のなかに、より強く私は感じることができる。「古風」であるかどうかは知らないが、ここには読者の身近にすぐみいだせる人たちの、生きる苦しみや悲しみや、そうして、ささやかではあるが、深いよろこびが、さぐりだされているはずである】

(将監さまの細みち 昭和31年刊 新潮社刊 作者のカバー書きより)

山本周五郎はよく“古風な”“地味な”作家といわれます。ですが、彼の小説は、その死後さらに幅広い世代に支持され続けています。それは彼が、権力者の側からではなく、最大多数である庶民を多く題材にし、人間の本質を見極めようとしつつ、人間の善意を信じ、そうした弱い庶民の哀歓にこそ人間の真実がある、という考えを貫



浦安の海を行き来する「べか舟」の記憶は山本周五郎に深く刻みこまれました。  
浦安市郷土博物館にて。

いた、作品的には“地味な”作家だったからではないでしょうか。

この「将監さまの細みち」も、やはり主人公・おひろは精神的にギリギリのところでは生きています。時代小説というかたちをとっていますが、ギリギリのところでは懸命に生きる人間の姿、という事では、今という時代に置き換えても全く差し支

えありません。(特に彼女の心の叫びともいうべき、「五十年まえ、——五十年あと——のくだりは何回読んでも胸が締め付けられるセリフです) 彼女が絶望のなかに見た「生きる苦しみや悲しみや、そうして、ささやかではあるが、深いよろこび」とは何であったのか、そして「五十年まえ・・・」のセリフの意味は何であったのか、ぜひご自分の目で確かめてみてください。

暗いニュース、人間性を疑うような事件がおきている昨今、「懸命に何かを為そうとする人間」を書き、「もう一度にんげんを、善意を信じてみたい」と思わせてくれる作家・山本周五郎は、今という時代に、一番読んで欲しい作家です。

### 江戸川まいにんぐ 発掘 第6回

#### 水辺の演奏家

抜けんばかりに青く透きとおる初夏の青空の下、休日の江戸川の河川敷は解放感いっぱいです。野球やサッカーはもちろん、「なんですか、これは」的な新顔のマイナースポーツも入り乱れ、市民アスリートたちの試合や練習を見ていて飽きません。

青空の河川敷は天井のないコンサート会場でもあって、街の音楽家たちが楽器をかかえて思いおもいに演奏しています。

北篠崎の水辺では、尺八を奏でている年配の方がいました。シブい！そのきわまるシブさに圧倒されまして、聞きほれること暫し。竹管から飛び出した音のひとつひとつは、さな

「区内路上観察」で遭遇した、けっこうレアで、それでいてけっこう役立ちそう、な情報を毎回お届けしています。

がら空也上人が唱える念仏がただちに阿弥陀仏に化したのがごとく、生を得て水面にありがたく広がっていきました。

譜面を立ててサックスに打ち込んでいる青年も。プロを目指してどんどん吹きまくりたいけど自宅は2LDK、あまつさえ弟が受験勉強中につき、それなら練習はアシがそよぐオープンシアターで、とそのようについ深読みしたくなってしまう、実直そうなサックス青年でありました。

水辺の演奏家には管楽器系の「楽団ひとり」が多くて、タイコ系がいそうでないのが今回の不思議でした。



江戸川の土手を上流にずんずん歩くと、やがて矢切の渡し。が。「つれて逃げてよ」「ついておいでよ」のやりとりもあったりして。